令和７年２月２０日

学校関係者評価委員の皆様

世田谷区立烏山小学校
校長　　廣石雄司

学校関係者評価委員会の関係者評価報告書を受けての令和７年度の改善策

学校関係者評価委員会より、令和６年度学校関係者報告を頂戴しました。一昨年度よりアンケートの回収方法が Web 上に変更されたこともあり、回収率が保護者４０％を割り込み課題となっていましたが、昨年度より、Web 上での回答に併せて回答済みの用紙を各学級で回収を行った結果、８５％まで回復させることができました。この貴重な回答を学校関係者評価委員の皆様によって分析され、提言をいただきました。学校として、今後の学校運営につきまして、学校関係者評価委員会の意見を基に改善を加えていくことについて、報告書の項目に沿って述べます。

１　重点目標について

（１）主体的に探究する子どもの育成

『学習のめあてについて、主体的に探究する』

【学校関係者評価委員会からの提言】

○児童の９１．９％が「授業で自分の考えをもつことができている」と高い肯定的回答をしている。また、「友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりしている」では、児童の８４．７％が肯定的回答をしている。

　このことから、児童が、課題解決に向けて、まず自分なりに考え、協働的な学習での練り合いを通して、多角的・多面的等に考慮し、結論を見い出しながら、さらに考えを深めていくという探究的な学習に一生懸命取り組んでいる姿がうかがわれる。

○児童の８７．６％が、「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」と肯定的回答をし、児童の９９％、保護者の８１．８％が、「授業で考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」と、肯定的回答をしている。さらに、保護者の８１％が、「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」と肯定的回答をしている。

　このことから、教職員が、文部科学省の学習指導要領に明記されている「主体的、対話的で、深い学び」を前提に、児童が課題意識をもち、主体的に探究していけるよう、話合い活動や協働的な学習の計画的導入、教材・教具の工夫、ＩＣＴ機器の活用等、学習過程や学習方法等において、わかりやすい授業の充実・改善に取り組まれた成果が現れていることがうかがわれる。

○「授業で自分の考えを伝えることができている」では、児童の肯定的回答は、７１．９％と８０％を切っている。同設問では、教職員は、９７．１％が肯定的回答をしている。

　このことから、まず、児童と教職員の「伝えること」のとらえ方の乖離の要因を含め、肯定的評価が８０％に満たない要因を、伝達力や語彙力、学級の人間関係・雰囲気、心理面、等々、児童の実態から検討され、児童が「伝えたくなるような」言語活動の環境整備をさらに進められることを期待する。

【改善点】

・児童が、課題解決に向けて、まず自分なりに考え、協働的な学習での練り合いを通して、多角的・多面的等に考慮し、結論を見い出しながら、さらに考えを深めていくという探究的な学習に一生懸命取り組んでいる姿がうかがわれるとの評価をいただきました。また、教師の授業の充実・改善への高い評価をいただきました。本校では、「協働的な学び」を推進していく上で、本校の「めあて学習」をベースに置いて授業改善に取り組んできました。来年度も継続して「協働的な学び」を通して、学習の

主体者として探究し続ける児童の育成をしていきます。

・「伝えること」についての課題をいただきました。子どもたちのほとんどが、挙手をして指名を受けて発表することが「伝えること」と捉えていると思われます。一方教師は、タブレット端末に自分の考えを書かせたり、友達同士で自分の考えを交流させたりすることも含めて「伝えること」と認識し、子どもたちとの捉え方の違いがあります。このことから、子どもたちにいろいろな場面で自分の考えが伝えられていることを認め励ましていきたいと思います。

・協働的な学びのよさが分かり、生かそうとする児童の育成についての研究の成果を生かして、児童の実態から検討し、自分の考えを表現したり、伝えたりすることを含めて、自己調整をして学習を進められるように指導していきます。

（２）多様性を認め合える子どもの育成

『友達との違いを認め合い、よりよい学級をつくろうとする。』

【学校関係者評価委員会からの提言】

○「私は、クラスのために役立とうとしている」「私は、学校で自分なりに工夫して学習したり、活動に参加したりすることができている」どちらも児童の８０％以上が肯定的回答をしており、自己肯定感の高さが評価できる。

○「私は、クラスの友達といっしょにより良いクラスにしようと努力している」児童の８２．１％の肯定的回答から一人一人が他者への優しさや思いやりを持って生活できており、良好な学級経営に教職員の指導の努力がうかがわれる。

○１０％以上の児童が否定的回答をしており、さらに寄り添った指導や支援の必要を感じる。教職員が一人一人の児童を受容し、個々のよさを発揮できる活動や場を設定し、個のよさや活躍に気付かせていく実践が継続されることを望む。そして、インクルーシブ教育や多文化共生教育を計画的に推進してほしい。

【改善点】

・児童の自己肯定感が、高まってきているとの評価をいただき嬉しく思います。自己肯定感を高めるために、「自分をかけがえのない存在として捉え、互いの違いを認め合える学級づくり」を進めてきました。

・前の項目である主体的に探究する児童の育成での報告の中に「学級の人間関係・雰囲気、心理面、等々」についての言及がありました。「伝えたくなるような」言語活動の教室環境を整える意味でも、居場所をつくり、個々のよさが発揮でき、みんなで高め合える学級づくりを進めます。

・インクルーシブ教育および多文化共生教育につきましては、区から４月に「せたがやインクルーシブ教育ガイドライン」が示されます。区の基本理念に基づいて、子どもたちが決めることを大切にして、子どもの的確な実態把握を行い、見守り伴走することを基本姿勢とし、子ども同士のつながりを大切にしていきます。また、教員の専門性を向上させる取組を行い、インクルーシブ教育を推進していきます。

（３）心と体の健康な子どもの育成

『自分の心と体の健康を意識し、すすんで体を動かそうとする。』

【学校関係者評価委員会からの提言】

○「体を動かすことは大切だと思っている」「体を動かすことが楽しい」どちらも児童の肯定的回答が８５%以上となっており、休み時間の外遊び推奨や長縄週間など、学校での日頃からの環境づくりの成果の一つと捉えられる。

○「学校や学校外で体を動かしている」児童・保護者ともに肯定的回答が前年度より上昇し改善しているが、一方で体力調査では平均を下回っている項目も多く、今後も児童がすすんで体を動かそうとする環境づくり、体力向上に繋がる取り組みを継続してほしい。

【改善点】

・心と体の健康な子どもの育成について、よい評価報告をいただきました。今後も、体を動かすと、体力以外にも目標に向かってがんばる力（意欲）、人とうまく関わる力（協調性）、感情をコントロールする力（忍耐力）などの「非認知能力」を伸長させるということを子どもたちに意識させていきます。

・来年度も休み時間の外遊びを推奨し、遊びの種類が増えるように遊びの紹介をしていきます。また、遊びの中で体を動かすことの楽しさを味わわせ、体を動かすことへのきっかけづくりを行っていきます。

・運動会へ向けての取組や縄跳び旬間や持久走旬間の取組を年間行事予定に無理なく配分し、どの子どもも体を動かす楽しさを味わえるよう、授業改善にも一層取り組んでいきます。

・心の健康な子どもの育成の一環で、「学校は失敗していいところ」として、失敗してもすぐにあきらめない「しなやかな心」を育んでいます。

２　重点目標に向けた取組について

（１）教育のプロとして教員の資質や組織力の向上を図る

〈学校運営、学級経営〉

【学校関係者評価委員会からの提言】

〇保護者、地域ともに肯定的回答が多く、おおむね良好である。

〇前年度より引き続き、「先生たちに相談できる」児童・保護者の否定的回答が上昇しており、人間関係や信頼関係の構築に取り組みながら相談しやすい環境づくりを望む。

【改善点】

・おおむね良好との評価をいただき嬉しく思います。

・「先生に相談できる」の質問項目につきまして、ご指摘の通り、一定数の相談できないでいる児童および保護者へ対して、スクールカウンセラーへ繋げたり、スクールソーシャルワーカーと連携したりして寄り添った対応をしてきます。

〈学習指導〉

【学校関係者評価委員会からの提言】

〇「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」児童の否定的回答が上昇しているため、授業の理解度に問題がないか注意を払っていただきたい。

〇保護者の「分からない」回答も依然として高く、教職員の取り組みを分かりやすく伝える、また、伝える機会を増やすなどの工夫をしてほしい。

【改善点】

・「協働的な学び」の研究を推進していく上で、教師が「教える」授業から子どもが「考え」、「学び合う」授業へ質的な変化をしてきています。以前は、教師が分かりやすい授業をすることが求められ、黒板の書き方、映像やタブレットの工夫等が求められましたが、昨今は、むしろファシリテーターとしての役割を求められてきています。この授業の質的な変化を保護者へ説明したり、学校公開の際に実際に見ていただいたりしていきたいと思います。また、学校関係者評価の質問項目としても、相応しいかを検討していただければと思います。

〈生活指導〉

【学校関係者評価委員会からの提言】
○おおむね良好。
○教職員が児童理解を深めて正しい方向へ導いていこうとする努力と、児童自身もよりよく生きようとする表れと受け止められる。ただし、肯定的に受け止めていない児童には、引き続き丁寧に指導・支援されることを望む。
○登下校時の地域との関りでは、地域の否定的な回答が目立つため、児童の登下校時の実態把握と、家庭・地域と連携した指導の工夫を望む。

【改善点】
・生活指導について、肯定的に受け止めていない子どもに対して、丁寧に寄り添った指導を行っていきます。
・時々、登下校や公園での遊び方などの様子を地域から情報をいただきます。生活指導主任が、その情報や対応等について担任等に共有し、子どもたちへ指導を行っています。また、今後も学校運営委員会と協議して家庭・地域へ情報を発信したり、必要に応じてＰＴＡと連携したりしていきます。

〈学校行事〉

【学校関係者評価委員会からの提言】
○教職員の働き方改革が進む中でも充実した活動ができているのは素晴らしい。
○学校行事を通じて、児童の意欲や達成感を大切にした指導と実践を期待する。

【改善点】
・運動会や学芸会では、教職員の熱意も高く、充実した活動となりました。今後も働き方改革を進めつつ、行事の意義を確認し、子どもたちの意欲や達成感を大切にした指導を行っていきます。

〈体育・健康教育〉

【学校関係者評価委員会からの提言】
○おおむね良好。
○教職員主導のもと、外遊びの奨励や教科体育の工夫を通して運動の質や量を鑑み、児童の基礎体力や運動能力の向上に努めることを期待する。

【改善点】
・重点項目である「心と体の健康な子どもの育成」の取組としていきます。
・基礎体力や運動能力の向上に向けて、持久走大会などは、体育の授業と連動して取り組み、体育の授業改善にも努めていきます。

（２）持続可能な社会を目指し、保護者・地域との連携を深める

〈地域との連携〉

【学校関係者評価委員会からの提言】
○学校運営委員会をはじめ、ＦＡＴＨＥＲＳ烏山、各町会と良い関係を保ち、連携して教育活動に生かしている。
○保護者のアンケート結果から地域への情報提供が足りないと感じられていることから、ＰＲや発信方法の工夫が望まれる。
○地域設問「本校の通学路は安全である」否定的な回答が４６．４％と高く、地域、保護者とともに連携して具体的対策を検討、改善されることを望む。また、安全面の見直しとともに通学時のマナー教育や交通安全教室などを引き続き行ってほしい 。

【改善点】

・コロナ禍を経て、創立１５０周年で再構築できた学校運営委員会をはじめ、ＦＡＴＨＥＲＳ烏山、各町会と良い関係を保ち続けていきます。
・地域への情報発信として、学校だよりの構成を変え、学年の情報も入れていきます。また、学校ホームページをリニューアルし、情報提供を行っていきます。
・生活指導と同じく、情報や対応等について担任等に共有し、子どもたちへ指導を行っています。また、今後も学校運営委員会と協議して家庭・地域へ情報を発信したり、必要に応じてＰＴＡと連携したりしていきます。

〈情報提供〉

【学校関係者評価委員会からの提言】
○保護者、地域とも学校からの情報提供に肯定的回答が多い。

【改善点】

・情報提供に関して、例年課題として挙がっていましたが、肯定的回答が増え、嬉しく思います。引き続き、情報提供に努めていきます。

（３）「キャリア・未来デザイン教育」の実現

〈キャリア教育〉

【学校関係者評価委員会からの提言】
○教職員の肯定的回答は多いが、児童・保護者の評価と乖離が見られる。
○「目標を持ち、その実現に向けて努力している」児童の８０％以上が肯定的回答しており、意欲的な生き方につながると考えられ、児童のキャリア形成に大いに期待できる。
○「生き方や将来のことについて考える授業をしている」児童・保護者の否定的回答が目立つため、まずは、キャリア教育の意義・目的・内容・方法・評価等について学校から具体的に児童・保護者に説明し、理解浸透を目指していただきたい。

【改善点】

・キャリア教育を特別活動を中心に、各教科や特別の教科 道徳、生活科、社会科、総合的な学習の時間で実施していきます。その中で、職業や勤労に対して正しい理解を図る授業を通して、生きることの目的や働くことの意味を見いだし、自分の役割や将来の生き方について考えようとする態度を養っていきます。
・キャリア教育は、例えば、係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かることもキャリア教育です。その他にも、あいさつや返事をする。「ありがとう」や「ごめんなさい」を言うことも、キャリア教育のコミュニケーション能力の伸長につながっていきます。こういったことも学校から啓発していきます。
・「からすやまキャリア・パスポート」を全校で活用し、キャリア教育に取り組んでいますが、例年、取組への理解浸透に課題の指摘をいただいています。引き続いて、学校行事、学級活動、道徳科等を通して、児童一人一人が自分らしい生き方を実現していくために、家庭と連携しながら、1 年間をかけて記録していることを知らせていきます。
・今年度、自分のよさや成長の軌跡を追うことができるように書式を見直しました。
・引き続き、保護者へ向けて、何をキャリア教育としているのか取組の様子をホームページの学校日記で知らせ、学校だよりなどでもキャリア教育の理解の促進に努めていきます。

〈学び舎〉

【学校関係者評価委員会からの提言】

○児童・保護者・地域の認知・理解度が依然として高まらない。「区立中学校に関する情報が提供されている」児童の肯定的回答は３５．７％と特に少なく、児童の多くは小学校と中学校が一体的な学びの場であると認識していない可能性が高い。また、保護者の２５％が小学校と中学校の交流機会を認知していない。増加を続ける中学受験比率・東京都による私立中学校通学家庭への配慮など、区立の小中学校を一体とする考えや取り組みに目が行きにくいことが想像される。

○保護者・地域には、【学び舎】の取り組みが、如何にして価値のある取り組みを実践しているかを、体系的かつ具体的に示していくことが求められる。

○児童が“学び舎で学び続けたい”と思える魅力の向上、また、情報提供や交流機会の機会が増えることを望む。

【改善点】

・学び舎の活動についての周知、啓発は、例年の課題になっています。

・近隣の幼稚園、保育園を含めて、学び舎として連携をしています。温知学舎の上祖師谷中学校教師による授業体験や部活動体験、ボランティア活動、年間３回の「学び舎の日」、授業公開、協議会等を通して児童・生徒、教員間の連携を深めています。

・佼成学園幼稚園、上祖師谷保育園、給田保育園などと、小学校低学年児童と次年度入学児との交流を中心として、目標や意欲、興味・関心をもたせ、粘り強く、友達と協調して取り組む力や姿勢などの非認知能力を育成していきます。その様子や取り組みを学校だより等で知らせていきます。

・上祖師谷中学校のボランティア活動では、本校の運動会やサマースクールでのお手伝いの様子を間近で見ることや、避難所運営訓練での活躍の様子を見ることができる機会があるので、全校へ向けての話や取組の様子を知らせることを続けていきたいと思います。

３　学校生活全般

【学校関係者評価委員会からの提言】

○「学校生活は楽しい」「学校が好き」児童の８０％以上が肯定的に答えていることは嬉しい。これは、一人ひとりの児童に対して、大切に寄り添いながら、指導や支援が継続されている成果である。様々な面において、児童が持つ教職員への信頼感の高さが感じられ、また、その教職員の関わりに応え、児童たちも友だちと一緒に学校生活を築きあげている様子が見受けられる。

○１０％以上の児童が否定的であることも忘れてはならない。教職員は学校の輪に入れない児童への支援や相談などに今後とも力を入れて取り組んでいただき、保護者や学校関係者も協働していく必要がある。また、行政への関わりも必要となるのではないだろうか。

○家庭での学習は、児童・保護者とも肯定的回答が他の設問に比べ低い。高学年になると中学への進学も近づき、より学習への関心は高まるため、コロナ以降変化したタブレットを使用・活用し、学校だけでなく家庭でも協力、協働することを望む。ＩＣＴ機器を活用しながら自分に合った学習方法を見つけ、学ぶ楽しさを将来に繋げていけるような取り組みを期待する。

○今後、興味関心をもち学びを深め広げていくためには、重点目標の『主体的に探究する子どもの育成』の充実がより求められる。また、可能なかぎり教科によってレベル別を拡充するなどの対応にも期待したい。

【改善点】

・誰もが「学校が楽しい。」「早く明日にならないかな。」と思えるような学校を引き続きつくっていきます。このことを来年度の学校経営のキャッチフレーズにしていきます。

・学校の輪に入れない児童への支援や相談などについて、教育委員会や関係諸機関と連携していきます。また、教室に入ることが難しい児童への居場所づくりであるほっとルームの拡充をしていきます。

・家庭学習の在り方については、自由進度学習による学習の進め方や個別最適な学習の在り方を含めて

考えていきたいと思います。

・令和６年２月の中央審議会諮問で、「学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加」が課題として挙がっています。烏山小学校では、子どもたちが、興味・関心をもち、学びを深め、広げていくために、『主体的に探究する子どもの育成』を重点目標に引き続き取り組んでいきます。

・教科によるレベル別の拡充につきましては、算数で習熟度別の学習を取り入れ、令和６年度には、２年生まで拡充しました。１年生についても、担任に加えて講師を加えた二人体制の授業も行っています。来年度も引き続き行っていきます。